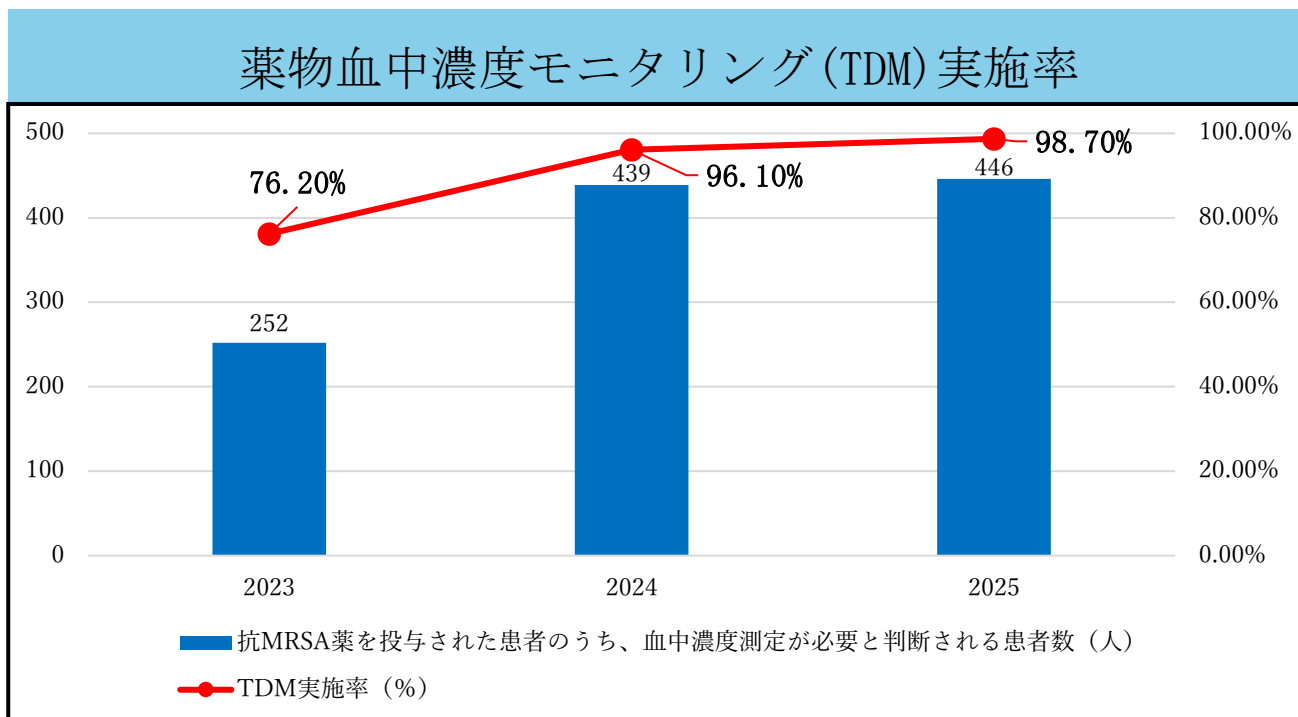


11. 抗 MRSA 薬投与に対して、

薬物血中濃度モニタリング (TDM) を実施した症例割合



➤ 指標の説明

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) とは、一部の抗菌薬が効きにくい細菌のことです。抗 MRSA 薬は、このような細菌に対して使用される薬であり、血液中の薬の量を適切に保つことが重要です。薬の量が少なすぎると効果が十分に得られず、多すぎると副作用が出やすくなるため、血液中の薬の濃度を測定しながら治療を行います。薬物血中濃度モニタリング (Therapeutic Drug Monitoring: TDM) とは、血液中の薬の濃度を測定し、適切な量に調整することをいいます。

➤ 定義

本指標は、抗 MRSA 薬を投与された患者のうち、血液中の薬の濃度測定が実施されている割合を評価する指標です。

測定方法: $TDM \text{ 実施率 } (\%) = (\text{分子} / \text{分母}) \times 100$

分子: 抗 MRSA 薬の血中濃度測定を実施した患者数 (人)

分母: 抗 MRSA 薬を投与された患者のうち、血中濃度測定が必要と判断される患者数 (人)

➤ 評価

当院では 2023 年 76.2%から 2024 年 96.1%へ大幅に上昇しており、適切な血中濃度管理が行われていると考えられる。今後もこの水準を維持していくことが重要です。